



## Sustainable Cities & Communities from KUSHとは

金沢大学附属高校では、2年生が「総合的な探究の時間」にグローバル課題研究と題し、“Sustainable Cities & Communities”（持続可能な社会と共同体）というテーマのもと探究活動を行っています。

歴史・文化、地域振興、経済、防災、環境、生活、NJC（シンガポールのNational Junior Collegeとの共同研究）の7つのゼミに分かれてそれぞれの研究を進めています。この記事は探究活動の様子やグローバル課題研究を多くの人に発信していくためのものです。

## ◆◇73回生の研究発信◆◇

今回の記事からSustainable Cities & Communities from KUSHでは73回生のグローバル課題研究について具体的に取り上げていきます。今回は生活ゼミから、皆本来斗さんの不登校児童に関する研究です。皆本さんは「石川県に夜間中学を設立する会」、学生団体“Be the Change”に関わり、自身の研究を進めています。

## ◆◇不登校児童生徒の為に「同世代」だからできること◆◇

研究の動機は、不登校の友人の存在でした。全国的に不登校児童生徒は増加傾向にあるにも関わらず、日本では「学校に行かない」という選択や学校以外の学びの場の存在があまり理解されていないのが現状です。周囲の人々の偏見や無理解が原因で苦しんでいる不登校の児童・生徒、保護者のために自分たち学生でもできることがあるのではないかと考えました。

この研究では、①不登校の現状を発信する、②不登校について多くの人と対話する場を設けるという2つの活動を柱にしています。

まず、金沢市のフリースクールIRORIを訪問し、不登校支援施設を自分の目で見て、施設で働く方のお話を聞きました。同じ場所で開催される不登校児童生徒の保護者や教育関係者の話し合いにも参加し、フリースクールとい

う学びの場はあるものの、その理解が浅いことや学校側の不登校児童生徒の保護者への対応の問題など課題も多いということを知りました。また、学校の存在意義や不登校に対する考えについてアンケート調査を行いました。学生や保護者、カウンセラーなど計228人の回答があり、「不登校は個人の問題なので他人が介入すべきでない」という意見がある一方で、「周囲の人の正しい理解や助けが必要」という意見もありました。

1月4日には、不登校支援活動を行う高校生とフリースクールを運営する方をゲストに招きディスカッションを開催しました。学生や教育関係者を対象として、日本の抱える課題や、学校に行くべきという固定概念について話し合いました。

今後も、対話の場を作ったり、情報を発信したりして、社会全体でこの問題について考え、少しでも現状を変えられるよう頑張ります。



## ◆◇お知らせ◆◇

この度、国連大学IASいしかわ・かなざわ・オペレーティング・ユニットの後援を受け、私が所属する学生団体“Be the Change”として対話の場を開催させていただきます。

来月2月12日と19日の19:00~20:30、「不登校支援の在り方」「学校の存在意義」などのテーマについて2週間に渡って対話を行います。詳細は下のURLのPDFをご覧ください。

<https://onl.tw/fU9EX8F>

生徒会公式Twitterではホームページの更新情報を発信しています。是非フォローお願いします！

生徒会公式Twitter [https://twitter.com/kfshs\\_souncil](https://twitter.com/kfshs_souncil)

“Sustainable Cities & Communities from KUSH”及び“Daily Life at Fuzoku”のフィードバックにご協力お願いします。

以下のリンクもしくは右のQRコードからGoogleフォームでの回答をお願いします。よろしくお祈りします。

Googleフォーム <https://forms.gle/UnfQfdDqPDNG8oF89>

